

Principal Correspondence

「空間的知性の重要さ」

人間の重要な知能には空間的知性というものがあります。人間の狩猟時代は文明が起こる前に数百万年間あり、遺伝子はその時代に刷り込まれ、未だに大きく変わっていません。



その時代、人は森や山の中に住んで狩りをし、木の実やきのこを採取した後、方向を迷わず帰る必要がありました。複雑で立体的な地形を乗り越え、**太陽の方向**を頼りに帰っていたと思われます。モノがどのような位置に、どのような速度や関係で存在しているかという知覚とその記憶、そしてそれに基づいて行動を組み立てる知性が空間的知性です。

現代は、家や町など直線でできている人工物をつくって2次元の画面を見て、平面に囲まれて暮らしているののでいつの間にか体を通して世界とつながる感覚を失ってきています。



空間的知性の脳領域や、脳の海馬という領域はこの自然の様な多様な空間を探求し歩き回ることによって発達します。

空間的知性は創造性やイノベーションに重要な役割をする脳を育むといわれます。北欧では空間認識のこの知能を高めるために外遊びや、これをどうやって鍛えるかの研究も盛んです(チームラボ代表 猪子寿之氏の言葉より)。

リリーベール小学校の校舎や運動場が高低差あるキャンパスになっているのも、キャンプや、自然体験を多く取り入れているのもそうした教育環境の一環なのです。



Principal Correspondence

勉強では育成できない知能が育ちます

脳の活性化の話です

人の脳が活性化した状態とは、どういう状態を言うと思いますか？

「さわやかだ?」「興奮していてさえている?」「活発に活動している?」

いろいろ考えられると思いますが、脳が活性化している状況とは、一口に「脳に血流量が増加すること」を言います。血流量が増加することで代謝量が活性化し前頭連合野が働きます。

朝、ご飯を食べてこない子は

ほとんどは、親が食事を食べさせないような悪い環境にあるのではなく、子どもが夜遅くまで起きており、朝ぎりぎりまで寝せているために食欲がなくて食べないことが多いのです。

朝、食べない事で脳に唯一の栄養分の糖が補給されず、寝不足によって、午前中「ぼーっ」と過ごしたり「不機嫌」だったり、授業に集中ができません。これを3年、4年と積み重ねれば、たったこれだけで知能には大きな差がつきます。だいたい人の能力の基礎・器が出来上がる臨界期(おおむね9~10歳)を迎えてからでは遅いのです。



私の友人で

水戸一高の折、一回授業を受けるだけで、すべて頭に入ってしまう人がおりました。私と一緒に遊んでいたのに現役で東大に合格しました。こういう人を脳の器が大きい人といい、知能が高く、瞬時に頭を活性化する力(つまり集中する癖)を身につけたのだと思います。

しっかりと規則正しく睡眠、食事(脳の栄養)を取るだけでIQは上がります。

もうひとつ

脳の発達のために「わーっ」「どきどき」「わくわく」「ふしぎだ~」「かわいそう」「じわ~」というような「感動体験」が必要といわれています。いわゆる「夜空を仰ぎ満天の星を見た経験」「自分で屋外でご飯を炊いた経験」とか「虫を捕まえた経験」「博物館や図書館に行った経験」などを持っている子どもの方が知能が高いというデータがあります。感動が脳を育むのです

